

CASBEE-広島 (2010年ver.1)
広島刑務所 庁舎

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.0
Q1 室内環境			0.40					3.0
1 音環境		3.0	0.15	-	-			3.0
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1	暗騒音レベル	3.0	1.00	3.0	-			
2	設備騒音対策	-	-	-	-			
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-			
1	開口部遮音性能	3.0	0.60	3.0	-			
2	界壁遮音性能	3.0	0.40	3.0	-			
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	3.0	-			
4	界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	3.0	-			
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-			
2 温熱環境		2.4	0.35	-	-			2.4
2.1 室温制御		2.6	0.50	-	-			
1	室温設定	1.0	0.38	3.0	-			
2	負荷変動・追従制御性	-	-	-	-			
3	外皮性能	3.0	0.25	3.0	-			
4	ゾーン別制御性	4.0	0.38	-	-			
				空調室外機の細かな系統分けにより、エリアごとの温度制御が可能				
5	温度・湿度制御	-	-	-	-			
6	個別制御	-	-	-	-			
7	時間外空調に対する配慮	-	-	-	-			
8	監視システム	-	-	-	-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境		3.2	0.25	-	-			3.2
3.1 昼光利用		3.4	0.30	-	-			
1	昼光率	3.0	0.60	3.0	-			
2	方位別開口	-	-	-	-			
3	昼光利用設備	4.0	0.40	3.0	-			
				昼光利用センサー設置				
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-			
1	照明器具のグレア	-	-	-	-			
2	昼光制御	3.0	1.00	3.0	-			
3.3 照度		4.0	0.15	-	-			
1	照度	4.0	1.00	3.0	-			
				執務室照度は750lx以上				
2	照度均斉度	-	-	-	-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-			
4 空気質環境		3.6	0.25	-	-			3.6
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-			
1	化学汚染物質	5.0	1.00	3.0	-			
				ホルムアルデヒド放散等級:規制対象外(F☆☆☆☆)				
2	アスベスト対策	-	-	-	-			
3	ダニ・カビ等	-	-	-	-			
4	レジオネラ対策	-	-	-	-			
4.2 換気		1.6	0.30	-	-			
1	換気量	3.0	0.33	3.0	-			
2	自然換気性能	1.0	0.33	3.0	-			
3	取り入れ外気への配慮	1.0	0.33	3.0	-			
4	給気計画	-	-	-	-			
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-			
1	CO ₂ の監視	3.0	0.50	-	-			
2	喫煙の制御	3.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.4
1 機能性		3.5	0.40	-	-			3.5
1.1 機能性・使いやすさ		3.6	0.40	-	-			
1	広さ・収納性	3.0	0.33	3.0	-			
2	高度情報通信設備対応	3.0	0.33	3.0	-			
3	バリアフリー計画	5.0	0.33	-	-			
				建築物移動等円滑化誘導基準の「望ましいレベル」を満たしている				
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30	-	-			
1	広さ感・景観	3.0	0.33	3.0	-			
2	リフレッシュスペース	3.0	0.33	-	-			
3	内装計画	4.0	0.33	-	-			
				外装とホールの繋がりを磁器質タイルの柔らかな色彩と素材感で演出				
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-			
1	維持管理に配慮した設計	4.0	0.50	-	-			
				外壁打放し面:撥水剤塗布 外部に曝される鉄部:溶融亜鉛めっき処理				
2	維持管理用機能の確保	3.0	0.50	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.0	0.31	-	-			3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-			
1	耐震性	3.0	0.80	-	-			
2	免震・制振性能	3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.3	0.33	-	-			
1	躯体材料の耐用年数	3.0	0.23	-	-			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	3.0	0.23	-	-			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	5.0	0.09	-	-			
				床:ビニル床シート(20年) 内壁:EP(65年) 天井:化粧PB(30年)				
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	3.0	0.08	-	-			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	4.0	0.15	-	-			
				空調(冷媒管):銅管(30年) 給水:ステンレス管(30年) 排水:ビニル管(30年)				
6	主要設備機器の更新必要間隔	3.0	0.23	-	-			

2.3 適切な更新			-	-	-	-	
2.4 信頼性			2.6	0.19	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		1.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.6	0.29	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	1階・2階:3900	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.16	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	将来の機器増設に対応できるよう屋上に十分なスペースを見込む	5.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	庁舎正面に緑地や広場を設け市民が利用可能な空間として計画	5.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	植栽やコケによる緑化	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			4.5	0.20	-	-	4.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	自然換気窓の設置	5.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	屋上に太陽光発電パネル設置	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR=25	5.0	0.30	-	-	5.0
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
4.1	モニタリング	給水とガスを中央監視装置でモニタリングを行う	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.63	-	-	3.5
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	集成材・ビニル床シート・せっこうボード・断熱材	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	アスファルト防水下地断熱材:押出法ポリスチレンフォーム保温材	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-	
1	消火剤		3.0	0.33	-	-	
2	断熱材		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		オゾン層破壊係数0の冷媒使用(R410A)	4.5	0.33	-	-	4.5
2 地域環境への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.6	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制	敷地内一般乗用車と大型貨物車両の出入口と走行範囲を分離	5.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制			2.3	0.40	-	-	
1	風害の抑制		2.0	0.70	-	-	
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			2.3	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		2.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	